

中村耳鼻咽喉科だより

＝ 突発性難聴 ＝

VOL.17

ある日突然聞こえない？

ある日突然、何の前触れもなく、突然起こる原因不明の難聴を「突発性難聴」といいます。

どんな病気？

① 突然の難聴

「〇月〇日から聞こえなくなった」「朝起きたら聞こえなかった」など発症した時点がはっきりしている。

② 高度な感音難聴

片側の耳だけに発症することがほとんどで、自覚できるほどの難聴が起こる。耳鳴やめまいを伴う場合もある。 ※必ずしも高度ではない。

③ 原因が不明・不確定

今のところ確実な原因は不明だが、

- ・ 内耳のウイルス感染
- ・ 内耳の血管循環障害

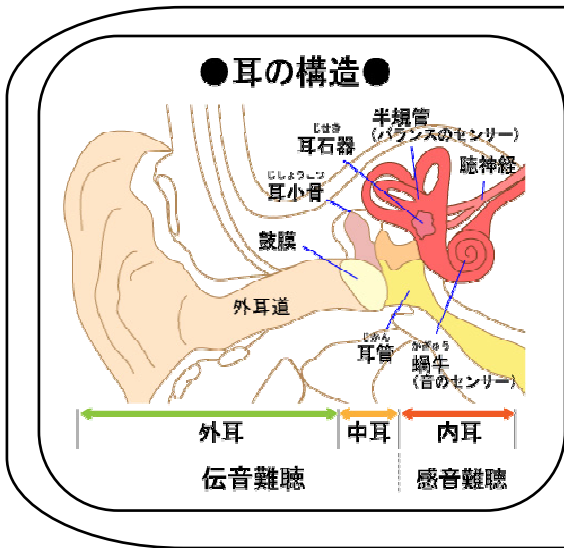
が有力な説と考えられている。



なお、突発性難聴は再発しないときれており、メニエール病のように難聴が繰り返されることはありません。

◎ 感音難聴とは

耳は大きく「外耳」「中耳」「内耳」の3つに分けられます。外耳から中耳の病気(中耳炎など)で起こる難聴を「伝音難聴」、内耳の病気(メニエール病、老人性難聴など)で起こる難聴を「感音難聴」といいます。



治療法

● 安静を保つ

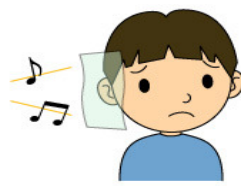
血液の循環を改善させるためには、安静を保つことが大事です。

● 薬物療法

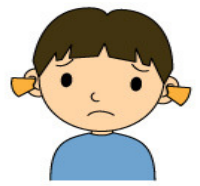
ステロイドホルモンの内服・点滴を行うのが一般的で、補助的にビタミンB剤・循環改善剤・血管拡張剤も使われます。ステロイドホルモンにはウイルスによる内耳の炎症を抑える作用や、炎症に伴って起こる内耳の血管のむくみを取り、血行をよくする作用などがあります。使用期間は1〜2週間の短期間で、薬をやめる場合も、徐々に薬の量を減らしていくので、副作用の心配はほとんどありません。ただし、糖尿病のある方にステロイドを使用すると、血糖値が上昇し、糖尿病が急に悪化することがあるので使用できません。



耳鳴りがする



膜を通して聞いているような感じ



耳が詰ったように感じ

治療すれば治る？

突発性難聴は、治療により必ず治る病気というわけではなく、治る場合と治らない場合もあります。

治療するうえで最も大切なことは、まず何より**一刻でも早く治療を開始すること**です。

症状を自覚した時点から約48時間以内、遅くても1週間以内に治療を開始すれば症状が改善される可能性が高くなり、1週間を超えると、治療をしても改善が困難な場合が多いようです。また、発症して約1ヶ月で聴力は固定すると考えられており、それ以降の改善はきわめて困難といえるでしょう。

聴力回復を左右する条件

突発性難聴の場合、同じ治療を行っても、治療効果は人によってかなり異なります。聴力回復の目安として、次のような条件がそろった場合は、

聴力の回復が見込めるとされています。

・発症から治療開始までの期間が早い

・めまいを伴っていない

・年齢が若い

・難聴の程度が軽い

・糖尿病や高血圧・高脂血症などの内科疾患がない

突発性難聴は発症から2週間が治すチャンスと言われています。急に聞こえなくなった、聞こえがおかしいと思ったら、少しでも早く治療を受けましょう。



急性低音障害型感音難聴

突発性難聴の一種で、特に若い女性に多い病気です。最初は、突発性難聴と同様に発症しますが、めまいは起こらず、難聴や耳鳴を繰り返すこともあります(この点が

突発性難聴と異なります)。自覚症状は難聴よりも耳が詰まった感じ(耳閉感)や、ゴーやザーという低い音の耳鳴が多く見られます。症状のある急性期と症状のない慢性期とを繰り返し、自覚症状は日によっても違い、急性期は数分から数日まで様々です。めまいを繰り返す前庭型メニール病に対して、難聴や耳鳴など蝸牛症状を繰り返すので、蝸牛型メニール病とも言われます。

突発性難聴や急性低音障害型感音難聴の発症のきっかけは、睡眠不足、過労、ストレスが関係しているといわれています。毎日十分な睡眠と休養をとり、日頃から疲れをため込まないように自己管理を心がけましょう。

